



西中だより

教育目標

豊かな人間性を培う
創造 自律 敬愛 健康

令和7年5月30日発行

第2号

「修学旅行から学ぶ」

余市町立西中学校長 豊田 一正

5月14日から16日までの3日間、宮城県へ修学旅行に行ってきました。修学旅行の目的は他の地域の風土に触れて学ぶ、協働性や責任感を向上させる、そして、自分たちの町との比較をして見つめ直してみることなどがありますが、今回の修学旅行は地域のつながりや活性化に向けて「自分たちにどんなことができるか」を考える機会になったと思います。

5月14日(水)、余市駅からJRで新千歳空港へ向かう予定でしたが、前日に銭函駅付近で起こった火災の影響で運休になってしまい、急遽バスでの移動となりました。保護者の皆さんに見送られ無事に出発することができ、仙台到着後の最初の見学地は震災遺構荒浜小学校でした。2011年3月11日に発生した東日本大震災で児童、教職員、住民およそ320人が避難した学校です。幸い全員が無事でしたが、校舎2階まで津波が押し寄せた跡や湾曲した壁、破損した天井などから改めて津波の脅威を感じました。また、職員の方からは当時の様子や災害への備え、被災前後の比較について説明を受け、復興に向けた地域の取組を学びました。次に向かったのは、東北福祉大学でした。防災教育に関する説明や5つのグループに分かれ担当の大学生から地域貢献の在り方やボランティア活動を行った体験を聞き、交流をしました。大学生の中には東日本大震災を経験した学生震災語り部の人もいて、命の尊さや防災の重要性について学ぶ貴重な体験となりました。その後、ホテルに入り夕食、入浴、自由時間と慌ただしく過ぎました。そして、一日の反省と班長会議を行い就寝でしたが、二人部屋や次の日が自主研修ということもあり早めに寝たようでした。

2日目は、メインの自主研修でした。予定よりも早く生徒は出発して行きました。「観光・イベント」「震災」「自然」「建物」とグループごとにテーマを設定し、事前学習を行い準備をしてきました。また、訪問先にはインタビューをする研修場所を入れることになっており、余市町との違いに着目しながら自主研修を行いました。多少のハプニングはあったようですが、どのグループもおおよそ計画通りにいき、時間通りに戻ってきました。その後は、日本三景の一つである松島巡りの観光船に乗り、少し曇っていましたが船内やデッキから景色を楽しむことができました。2日目の宿泊場所は豪華なホテルで、部屋も広く、何と言っても夕食のバイキングは最高でした。生徒たちは何回も食事を取りに行き、デザートまで堪能していました。夕食後は部屋レクで盛り上がり、入浴は温泉やサウナを楽しんだようではなかなか上がってきませんでした。その後、反省、班長会議、就寝でしたが寝付けなかった人もいたようです。

3日目の朝食もバイキングでした。ホテルを出発し、東北地方で最古の桃山建築である「五大堂」を見学しました。軒まわりには十二支の彫刻があり、自分の干支を探していました。その後は徒歩で伊達政宗の菩提樹として知られる「瑞巖寺」を見学しました。どちらも重要文化財や国宝に指定されており、貴重な経験となりました。以上で全ての見学が終わり、いよいよ帰路につき、仙台駅から新幹線で函館へ、洞爺駅まではJR、その後はバスでレクを楽しみながら西中に戻ってきました。

今回の修学旅行では、全体を通して見ると、時間を守る、落ち着いて行動する、協力し合うなどの良い面が見られ、担任の先生からもお褒めの言葉がありました。反面、挨拶や反応が薄かったり、声が小さいなど、普段の学校生活の課題が出ているところもありました。この修学旅行を通して、良かったところとそうでなかったところを整理し、これからの学校生活の中でよく考えて行動してほしいと思います。また、1, 2年生に姿や行動で示してくれることを期待しています。

修学旅行では子どもたちの成長を見る機会が多くありました。保護者・地域の皆様には、今後とも職員一同指導を重ね、生徒の健やかな成長を育んでまいりたいと思いますので、一層のご理解・ご協力をくださいますようお願いいたします。